

ちちぶだより



2025年 第351号

◆特別支援寮運用にあたって	I	療育支援課	伊藤 隆	2
◆特別支援寮運用にあたって	II	地域移行推進課	村上 功二	3
◆特別支援寮運用にあたって	III	地域支援課		
		強度行動障害支援推進官	石田 昭人	4
◆特別支援寮運用にあたって	IV	特別支援寮(どんぐり寮)	須永 貴之	5
◆開園記念日の集い「わかば祭」		かりん寮	太田 夏子	6
◆新規採用・異動職員さんに聞いてみました		石田 昭人・齋藤 祐一	7	
		遠藤 信治・小林 隼人	8	
		今泉 千愛	9	
◆各寮の様子		かりん寮	島田由起子	10
		けやき寮	伊藤 幸恵	10
		くぬぎ寮	滝澤 剛敏	11
		どんぐり寮	清水 康平	11
◆熊澤海道の「〇〇させるとい言葉」		熊澤 海道	12	
◆職員の動き・入所児童の動き・行事予定		仲川 正徳	12	

特別支援寮運用にあたって

I

秩父学園 療育支援課 課長 伊藤 隆

秩父学園では、令和7年度より、新たに「特別支援寮」を開設し、強度行動障害を有する児童を有期限（最長1年間）で受入れ、集中的な支援を行うとともに、児童相談所を中心として、市区町村、学校、相談支援事業所等の関係機関が連携して地域の支援体制を整備するため、地域の支援体制のあり方についての提案を行う取組を開始したことについて、ちちぶだより第350号において、特別支援寮開設に至るまでの経緯や秩父学園の方針をお伝えさせていただきました。今回は特別支援寮運用開始後の状況についてお伝えさせていただきます。

令和7年4月1日の運用開始以降、全国各地域より多くのご相談をいただいておりますが、各児童相談所を相談側窓口とし、対象となる児童に関わる関係機関等と当初より連携を図っていただきつつ調整を重ねて参りました。

当園への見学、当園からご本人への面会を実施し、「ご本人が当園を利用するイメージを持つことができるか」からスタートし、児童の担当児童相談所が中心となって、市区町村、学校、相談支援事業所等の関係機関と連携し、地域で生活するための支援体制の構築に努めていただくため、申請の段階から、学園退所後のサービス利用、関係者会議の開催見込み、家族に対するプログラムの実施等、学園退所後の児童とその家族をどのように地域で支えていくかについて、具体的に提示していただき、入所の可否を判断する「入所審査会議」を開催する、という流れをとらせていただいております。諸手続においては、ご本人やご家族等が福祉を損なわない、不利益を被らないためにも必須とさせていただきます。何卒、ご理解をいただきたいと思います。

これらの調整の下、ここまでに数名の児童が入所

に至っております。

秩父学園においては、「標準的な支援」の考え方を基本とし、強度行動障害支援推進官、児童指導員、看護師、心理療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士等の多職種が連携し、個別支援計画を作成しております。作成にあたっては、ご本人へのアセスメント、支援会議等を入所前より実施し、入所当日には個別支援計画書に沿って支援を開始します。また、入所後においても、寮職員での支援会議や療法士と寮職員による支援会議を継続して行い、ご本人への的確な支援実施に努めております。その後は、入所後2ヶ月のカンファレンス（関係機関参加）、関係機関との移行に向けた調整会議等を実施し、すでにご本人が次のステージへと移る準備も開始されます。特別支援寮での入所期間は最長1年間であることから、この1年間をもってご本人の課題がすべて解決されるわけではありません。入所期間中にご本人に適した支援方法を構築し、退園後にはその支援方法をもってご本人が生活される「地域」で引き続き支援に当たっていただく、支えていただくという切れ目のない支援の提供がされることを目指しております。そのために、地域の支援体制作りにも協力させていただきます。また、退園後のアフターフォローについても実施して参ります。

上記内容につきましては、前号から重複する部分も多くありますが、いずれにしても、秩父学園単独では成しえない取り組みとなっております。すべては、「児童ファースト」であるべきと考えます。児童相談所をはじめ、各関係機関におかれましては、格段のご配慮、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

特別支援寮運用にあたって Ⅱ

秩父学園 地域移行推進課 課長 村上 功二

昨年度、旧けやき寮の一部を改修し、強度行動障害児の受入に特化した特別支援寮（どんぐり寮）の改修に着手し、この4月から申し込み、受入がスタートしました。特別支援寮をスタートするにあたり、①環境の強化②援護市町村の地域の体制作り③入所期間の限定（1年間）④強度行動障害支援推進官の配置⑤入所相談窓口対応⑥移行先の決定⑦移行する事業所職員向けの研修の7つについて、大きな変化がありました。

①の環境の変化については、クールダウンスペースを用意するなど、児童が安心して過ごしやすいよう構造化を図るとともに、壁の板張り、ドアの上下のレール化、ステンレス製のトイレや洗面台など、簡単には壊れない構造に改修をしました。

②の援護市町村の地域の体制作りについては、本人の将来を考え、入所前に、最長1年後の地域での受入体制として、定期的な移行会議への参加、会議メンバーの決定、相談支援事業所の確定など、関係機関の役割を明確にし、約束を交わしてから受入を決定するという強い姿勢で望んでいます。

③入所期間の限定（1年間）については、秩父学園創設以来の取り組みで、1年間で本人のアセスメント支援をし、1年後の地域での受入体制も具体的に決めていきます。昨年度までは、児童相談所から相談があった際、具体的な移行のイメージが出来ていないケースが多かったのですが、具体化することで、より関係機関の役割の継続が明確化され、今後の移行がスムーズになってくると思われます。

④強度行動障害支援推進官の配置については、今年度、外部機関より、強度行動障害の支援の知識・技術に卓越した職員を配置しています。特別支援寮だけでなく、全ての寮のコンサルテーションをすで

に実施していて、秩父学園全体の支援力向上に貢献しています。

⑤入所相談窓口対応については、昨年度、特別支援寮の改修に伴い、入所を一時停止していたこともあり、4月だけで50件近くの相談が寄せられています（4ヶ寮含）。特別支援寮が初めての取り組みのため、強度行動障害支援加算判定シート、地域の体制、申込書の書き方など、多くの質問が寄せられ、窓口対応職員が丁寧に説明をさせていただいています。

⑥の移行先の決定については、入所の条件として、1年後の移行先を決めておくことが条件となっています。そのため、移行先を家庭復帰とされるケースが多くなっています。しかし、いただいた資料を精査すると、とても家庭に帰ることは現実的でないケースも多く、家庭と入所施設やグループホーム等への移行の2つの進路で進めていく結論になることが増えています。

⑦の障害福祉事業所向け見学・研修については、今年度より、移行する事業所向けに、標準化された支援についての講義・見学・体験・事例検討などをセットにした1日研修を試行的に実施しています。標準的なアセスメントや支援方法を学び、その上で、実際に受け入れる児童の支援方法の引き継ぎも兼ねた研修を実施することで、スムーズな移行を目指しています。

まだまだ、学園職員も入所相談や寮での支援も手探りな面もございますが、丁寧にアセスメントをして、必要な支援の方法を明確化し、移行に関する地域体制や移行する事業所の職員も育成することで、結果、本人が安心して暮らせる場への移行が出来るよう努力していきたいと思っています。

特別支援寮運用にあたって Ⅲ

特別支援寮を中心に秩父学園全体で取り組むべき支援の方向性について ～標準的支援と地域づくりを大切に～

秩父学園 地域支援課 強度行動障害支援推進官 石田 昭人

各都道府県、各地域では、本来一番手厚さが必要なはずの強度行動障害のある方への支援が不足しており、ご本人、ご家族が疲弊、孤立している状況が続いています。この状況を変えていくべく一助としての役割が、今年度開設した特別支援寮を中心とした本学園の取り組みに期待されています。

特別支援寮では、強度行動障害の様相が特に強い児童を各地域からの要請に応じ受け入れ、標準的支援に取り組んでいきます。行動障害が生じる要因は、ご本人の障害特性に対しミスマッチな環境下にあること、環境要因の問題が主となります。そのため、ご本人の障害特性を改めて詳しくアセスメントし、その個の特性に合わせたオーダーメイドな環境設定、個別の支援内容を特別支援寮で作りにあげていく、このことが標準的支援の中核的内容となります。なお、この標準的支援の考え方は、強度行動障害に限ったものではなく、知的障害、発達障害支援において基本ベース、支援方向性を示すものであり、本学園全体でも共有し今後の支援展開につなげていくことになります。

加えて、特別支援寮のみで支援を簡潔させることが目的ではなく、各地域に標準的支援内容が引き継がれていくことこそが重要であるため、特別支援寮での受入は1年以内の有期限としています。受入時から各地域の支援機関等と連携し、研修機会の提供やカンファレンスでの話し合い、特別支援寮見学、実習を通した支援内容の共有等を繰り返し、地域に戻った後もフォローアップを通し標準的支援が継続される体制づくり、該当ケースを通して地域全体の

支援力が向上していくことにより他の強度行動障害のある方への支援にも各地域で取り組んでいけるようになることを目指します。すなわち、各地域の強度行動障害支援体制構築、地域づくりに本学園も関与、貢献することで、冒頭に述べた強度行動障害に係わる地域課題の解決を目指したいと考えます。

さて当職が担う強度行動障害支援推進官の役割としては、上記取り組みをすすめるべく、特別支援寮を中心とした各寮への内部コンサルテーション（支援に係わるアドバイス等の実施）と各地域への強度行動障害支援推進を担うために必要な取り組みを、新設のポジションでもあるため既存の概念に捉われすぎず、新たな発想ですすめていきたいと考えます。私は今年度からの採用ですが、これまで北海道札幌市の発達障害者支援センター等で強度行動障害含め地域課題に取り組んできた経験があり、今後は国全体の視点も併せ持ち本学園職員、関係機関等と協力し取り組みを進めてまいります。

今後の本学園での強度行動障害支援の新たな取り組みにご注目ください。



特別支援寮運用にあたって

Ⅳ

秩父学園 療育支援課 特別支援寮（どんぐり寮）寮長 須永 貴之

特別支援寮（どんぐり寮）につきまして、今号では「運用」として、寮稼働後の実際の状況について、お伝えさせていただきます。

さて、今回、改めて「運用」という言葉を調べたところ、「そのものの持つ機能を生かして用いること。」と記されていたので、この「機能」としての観点から現在までの特別支援寮の運用について、少しまとめながら書かせていただきます。

特別支援寮の「機能」としては大きく2つあります。ひとつは強度行動障害の状態にある児童を受け入れ、ご本人にとって安心して過ごせる環境や必要なツールを整えることです。もうひとつは、強度行動障害の状態にある方が住まわれている地域資源にASDの特性理解等を働きかけ、一緒に考えることで、困難を抱えた状態にある方が地域で暮らせる環境を整えることにあります。

特別支援寮は最大1年の有期限で支援を提供させていただくこととしており、その対象者は強度行動障害判定基準表において20点以上の点数が出る方（強度行動障害の状態にある方）としております。受け入れ人数については、生活寮の改築が予定の半分までしか整っていないこともあり、新規の受け入れは最大5名までとさせていただいております。

実際の運用状況として、建物は改修エリアと未改修エリアで分けて運用しており、有期限での運用は改修エリアのみで実施しています。それに加え、未改修エリアでは寮開設前から入所されていた児童で強度行動障害の状態にある方5名に利用していただき、支援を実施しているところです。改修エリアでの新規入所児童は7月に2名が入所されており、ま

ずは1～2ヶ月ほどかけて新たな生活環境に慣れていただき、安心感を得ていただけるよう整えているところとなっております。

この状況に照らし合わせて、特別支援寮の「運用」を捉えると、利用児童への支援としては肅々と進めている一方、その児童が住まわれていた地域に理解や支援の輪を広げるという点では、「まだまだこれから」と言えます。これは単に事業運用の面だけでなく、私たち秩父学園職員のスキルとしてもさらに学ばなければならないところでもあります。特に支援対象児をアセスメントし、支援に必要な情報を的確に抽出する力や、得られた情報をまとめてアウトプットする力はこの事業を進める中で向上させ、少しでも多くの方、ひいては、その地域に還元させたいと考えております。

今回は運用のお話として、まだまだ不十分ではありますが、今後、良いご報告ができるよう特別支援寮の機能的な運用に力を注ぎたいと考えております。ぜひ、支援者間ネットワークとしてもつながりを持たせていただき、学ばせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。



令和7年度 秩父学園 開園記念日の集い「わかば祭」

療育支援課 かりん寮 太田 夏子

令和7年6月7日、すっきりと晴れ渡った空のもとで、秩父学園創立記念「わかば祭」を盛大に開催することができました。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い令和元年以降縮小してきたわかば祭ですが、昨年に引き続き、ご家族の皆様やご来賓の皆様、ボランティアの皆様や卒園生、たくさんの方にお越しいただいての開催となりました。今年度は「お祭りのような雰囲気を楽しみながら、ご家族でのお食事を楽しんでいただく」をテーマに、ワクワクを詰め込んだ企画を携えてスタートです！

開催前のグラウンドには、大物ゲストのコバトンとトコロんが遊びに来てくれています。大人気キャラクターと触れ合える非日常体験に子ども達の笑顔が弾けました。そんな中「ドン！ドン！」と大きく響く太鼓の音に、人々の意識が集中します。和太鼓の演奏によるオープニングセレモニーを披露してくれたのは、元入間わかさ高等特別支援学校教諭の長谷川先生と、かりんの児童です。力強く情熱的な演奏をありがとうございました！

開会式に続いて、ご来賓の皆様、日々お力添えをいただいているボランティアの皆様のご紹介をさせていただきました。そして学園児の歌に進むと、学園のヒーロー・くぬぎレンジャーの登場です。会えることを心待ちにしていた子ども達は瞳をキラキラさせ、その様子はまるで、遊園地に遊びに来たような感覚を抱くほどでした。続く寮紹介では、子ども達と一緒に発表するその様子から、寮の雰囲気や特徴が伝わってくる素敵な時間となりました。

そしていよいよ、「天理教本芝房ハーモニックウィ

ンズ」の皆様による舞台発表です。迫力のある生演奏と華麗な技で、会場は一気に最高の盛り上がり

となりました。流行の曲に子ども達もダンスに合流！楽団の皆様に温かく歓迎していただき一緒に踊った貴重な体験は、素敵な思い出として刻まれたことと思います。

最後には新任・異動職員5名による演奏発表です。タイプの違う和太鼓による、力強さの中にも繊細さが見えるような素晴らしい演奏に魅了されました。

第2部は、ゲームコーナーの開催と、お弁当提供による昼食です。ゲームコーナーは、天理教ダンサーの皆様やみどりの応援隊の方々のお手伝いをいただき大盛況となり、子ども達やご兄弟、そして卒園生が夢中で取り組みはしゃぐ姿が多く見られました。また、お弁当を手にした子ども達やご家族が、体育館やグラウンドのテント内など、お好みの場所でゆったりと昼食時間を過ごされている姿がとても印象的でした。

最後になりますが、今年度は多くの場面で新しい取り組みがあり、手探り状態の連続でした。運営の難しさと向き合い進む中で、どの局面でも学園職員諸先輩方のご助言、ご協力をいただき無事に開催できましたこと、深く感謝いたします。

また、ご多忙の中ご来園くださいました皆様に重ねて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



新規採用・ 異動職員さんに 聞いてみました

今年度数ヶ月が経ち秩父学園チームの一員になった職員に今年も聞いてみました。

- ①秩父学園に就職したいと思った動機
- ②秩父学園の第1印象 ③7月9日時点での感想
- ④今後こんなことをしてみたい、こんな職員になりたい
- ⑤自由記述です。

今年は、どんな回答だったでしょう

地域支援課 強度行動障害 石田 昭人

①アラフィフになると新たな経験等のチャンスが減り、仕事に限らず新しい何かないかな～と探していました。そんなとき秩父学園さんの話があり、北海道在住でしたが人生の中の大きなチャレンジはラストワンチャンかも？と、背水の陣、人生修行の覚悟で上京してきました。

これまでの自分のライフワークの中心は自閉症支援であり、学園での強度行動障害のプロジェクトに携わる機会を頂き、これまで諦めず続けてきてよかったなと思います。

②引っ越し初日に狸と遭遇しビビりましたが、自然も豊かでとても癒される環境です。

こどもたち、職員のみなさんも優しい人ばかりで、単身赴任でロンリーなところもダブルで癒されます。ありがとうございます！！

③とにかく「ア・ツ・イ」

北海道に比べ所沢は気候がとにかく「暑い」
国の機関は支援体制が充実していて「厚い」

そして何より職員さんたちのハートが「熱い」 秩父学園は「熱盛」ですね！

④アラフィフになると頑固者に陥りがちですが、そこはあらがっていろいろな考えを取り入れ、修行を続けなんらかの悟りにたどりつきたいです。加えて、周囲への感謝を忘れない謙虚な人間になりたいと思うのですが、性根が曲がっているので続けて修行に励みます。

⑤家族を北海道に残してきたので今後どうなるかは自分でもわかりませんが、先のことよりいま自分にできることに目を向け、貢献できればと思います。

修行の一環として昼は断食で食べません、酒は平日禁酒です（検診の数値が悪いため）。その代わり、週末のビールを楽しみに1杯目がどのシチュエーションだと一番うまいのかを研究し、マラソンやサウナ等に手を出しています。それらが趣味です。

官舎住まいで敷地内をウロウロしていますが、温かくお見守りくださいませ。

療育支援課 特別支援寮（どんぐり寮） 齋藤 祐一

①秩父学園に異動と言われて正直驚いたのと「まさか自分が」と思った部分もありました。生まれてから地元群馬を離れて暮らすことはなかったので、不安な部分もありましたが、楽しみな部分もありました。

これまで発達障害者の支援に長く関わっていたことや、児童発達支援、放課後等デイサービスで支援をしていた経験もあったので、自分が学んできたことや、ノウハウを生かして、児童の生活をより豊かに、将来に希望を持って生活できるような支援をしていけたらと考えていました。

また支援現場においても、新たな人間関係を作るなかで、より多くの人とつながり、そうした方々か

ら、たくさんのことを学ばせていただき、逆に自分がこれまで行ってきた経験や知識を伝えることで、お互いに高め合える関係性を作ることができればいいなと思っていました。

②4月1日通勤した際に、正門付近に生えている木が、すごく大きくて圧倒されました。歴史と伝統のある場所なのだなと感じました。その中で自分がやっていけるのだろうかと不安にもなりましたが、中に入ると職員さんたちが皆優しく、ウエルカムな雰囲気でしたのでとても気持ちが楽になり、そんな外見と中身のギャップをすごく感じました。

③素晴らしいチームに恵まれ、日々楽しく仕事をさせ

ていただいています。また寮以外の職員の方にもよく声をかけていただき、とてもありがたく思っています。

支援の現場では日々様々なことが起きますが、どうすれば児童によりよい暮らしが提供できるのか、生活の質を上げるためにはどのような支援が必要なのかを日々考えながら取り組んでいます。毎日起こる様々なことに対して、トライアンドエラーを積み重ね、児童の充実した生活を目指して仕事に取り組んでいます。自分としても刺激にあふれる毎日で、とても充実した日々を過ごさせていただいています。

④自分は群馬県にある「のぞみの園」から参りました。のぞみの園は成人の施設ではありますが、自分が秩父学園での取り組みをのぞみの園に伝え、のぞみの園での取り組みを秩父学園に伝えていくことで、

施設と施設をつなぐ架け橋のような役割ができたかなと思っています。

また支援の面だけでなく、職員同士の交流を通して、同じ支援に取り組む仲間づくりができたかなと思っています。仕事で困ったときに気軽に相談ができたり、プライベートでも共通の趣味などでつながりが持てるような、人と人をつなぐ架け橋のような役割もできたかなと思っています。

⑤と、ここまでいろいろなことを書かせていただきましたが、私自身まだまだ未熟者ですので、多くの方に仕事の面、プライベートの面、両面で、ご指摘、激励、はげしめのツツコミ、等をいただき、日々成長していけたかなと思っていますので、よろしくお願い致します。

療育支援課 特別支援寮（どんぐり寮） 遠藤 信治

①これまで成人施設での支援やケースワーカーとしての仕事を通じて、福祉の現場に携わってきました。さらに専門的な知識を深め、より質の高い支援ができるようになりたいと思い、秩父学園への就職を希望しました。

②職員の皆さんが児童一人ひとりに対して、丁寧であたたかい声かけをされているのが印象的でした。

③児童のみなさんと少しずつ関係を築くことができ、とてもうれしいです。日々の関わりを通して信頼関

係を深めていけるよう努めていきたいです。先輩職員の方々から専門的な支援方法を丁寧に教えていただいています。また、皆さんとても優しく接して下さるので、楽しく安心して働ける環境だと感じています。

④児童の皆さんが持っている力を十分に発揮できるような支援を行い、安心して過ごせる環境づくりに貢献できる職員になりたいです。

⑤よろしくお願いします。



療育支援課 けやき寮 小林 隼人

①以前、保育園で勤務をしていた時に、秩父学園で行われている講習会や保育実践研修に参加しました。現場で活用できる実践的な学びを得ることができ、その後の保育にとっても大きな影響を与えてくれました。

引き続き保育現場に従事していたところ、秩父学園で職員採用募集をしていることを知りました。当時の秩父学園での学びが、保育士を務めていく中で大きな転機になったこともあり、今後さらにたくさんの研鑽を積みたいと考え、この度の採用募集に応募いたしました。

②秩父学園は広大な敷地と建物、それに伴った教材や支援道具などが充実しており、こうした施設環境

にとっても驚きました。一步戸外へ出ると広がる自然溢れる豊かな環境は、児童たちの心のゆとりにもつながっていることでしょう。動植物が好きな私としては敷地内にある四季折々の自然や生き物たちと共生する環境にも心とませてもらっています。都会の保育園に勤めていた際、高層マンションに住む子どもたちは蚊を見かけただけで大喜びしていました。設備面に関しては努力の有無だけでは解決されないものなので、こうした環境にとっても感動しました。

③秩父学園にいらっしゃる全ての職員の皆様が常に温かく見守ってくださっているおかげで、今日まで勤務することができています。まだまだ不慣れでご迷惑を多々おかけしている日々なので、少しでも早

く業務に慣れていきたいです。未だに余裕のない毎日ではありますが、敷地内をふと歩く度に見られる季節ごとに芽吹く花や植物、そこに現れる虫や鳥などに癒しをもらう毎日です。雨上がりの匂いさえも体に染み渡ります。

④寮で児童の方々と日々接する中で、心と心の会話を軸に信頼関係を築き始めていることを感じられ嬉しく思います。皆様の心の拠り所となれるような雰囲気作りや、安心した支援を提供できるように日々学んでいきたいです。

私の場合、保育園現場にいた過程があるので、その経験を何かしらの部分で活かしていけたら幸いです。保育園ではたくさんのこどもたちと保護者の方々に支えられてここまでやってくることができました。これまで私を温かく見守ってくれたたくさんの方々の思いに応える意味でも、今後の秩父学園での職務を精一杯務めさせていただきます。

療育支援課 けやき寮 今泉 千愛

①秩父学園に入職したいと思った動機は、大学3年次の実習で秩父学園での生活を経験し、長期目標を立て支援をすることができる入所施設に魅力を感じたことです。

大学2年次より放課後等デイサービスでのアルバイトをしており、そこで出会ったこどもたちとのかわりの中で支援の楽しさ、奥深さを知りました。ですが、「放課後」というだけあって支援の時間には限りがあり、曜日固定でご利用してくださっているこどもとは月に数回程度しか会うことができませんでした。限られた時間、日数の支援にもどかしさを感じていた頃、秩父学園での実習がありました。入所だから見られる姿、できる支援があると感じ、秩父学園への就職を考えるようになりました。

②秩父学園の第1印象は、職員の皆さん、児童が作り出す雰囲気がとてもあたたかい場所という印象でした。まだ学生だった私にとって初めての入所施設、変則的な時間の実習だったため初日は緊張感がありましたが、そのあたたかい雰囲気で一気に緊張がほぐれました。

③入職してすぐに児童のお引っ越しもあり、しばら

今、保育現場は待遇面、業務内容、保護者支援の在り方等、大きな転換期に入っています。追い打ちをかけるように保育園の倒産や廃業が増加する2025年問題に突入したことで、これらの課題は今後も増加していくと思われます。今年度は寮の支援と併任して地域療育支援室での業務にも携わらせていただいております。これまでお世話になった保育現場への恩返しも含めて、微力ながらではありますが尽力していきたいです。

⑤秩父学園での講演会や研修がきっかけとなって、保育人生の転換期を迎え、以降の業務に大きな影響をいただきました。そして今、そのきっかけとなった秩父学園に辿り着きました。当時を思い返すと、こうした岐路は夢にも思わず、人生とは分からないものだと感じています。このご縁に心から感謝して、今後より一層精進していきたいです。どうぞよろしくお願いいたします。

く落ち着かない状況が続きましたが、徐々に落ち着いてきました。児童の皆さんとも心の距離が少しずつ縮まってきているように感じています。また、職員の方々も皆さん優しくとても働きやすい職場だと感じています。

④今後、先輩職員の方々のご指導や日々の支援の経験を積み重ねていく中で、児童の皆さんの抱える思いや伝えたい思いに寄り添うことができる職員になりたいと思っています。また、児童の皆さんの課題、問題とされている姿・行動ばかりではなく、好きなことや得意なことに目を向け、大切に伸ばしていくことができるようにしたいです。学園で行われる様々な行事を通して、児童の皆さんとたくさん思い出を作っていきたいです。

⑤入職当初、同期の皆さんは様々な職を経験されていることを知り少し心細さを感じることがありました。ですが、同期の皆さん含め、職員の方々皆さん優しく心強く安心して過ごすことができています。まだまだ至らない点も多いかと思いますが、今後よろしくお願いいたします。



各寮の様子 とても暑かった初夏



かりん寮

かりん寮の児童は、休みの日になると決まって「今日の予定は？」と聞いてくるぐらい、イベントが大好きです。

ゴールデンウィークには、皆でカラオケ大会をしました。マイクを使って好きな歌を歌う子、音楽に合わせてジャンプをして楽しむ子、皆が楽しんでいる様子をにこにこ笑顔で見守る子、色んな楽しみ方がありました。別の日には、まだ本格的に暑くなる前でしたので、夕食を外で食べました。爽やかな風が吹く中で食べる夕食は、いつ



にもましておいしく感じられました。

6月7日は、秩父学園の開園を祝う「わかば祭」に参加しました。これまでの太鼓練習の成果を発表したり、児童全員で寮の紹介を頑張ったり、ご当地キャラクターと記念撮影をしたりと、大満足の日でした。わかば祭には、退園したOB・OGが来るので、会うのを楽しみにしている児童もいました。会った後「～さんは、仕事を頑張っているんだって。」「携帯買ったって言っていたよ。」などと話していました。大人の生活について知る良い機会になっています。

島田 由起子



けやき寮



けやき寮は、昨年12月より場所をウィズに移動し、メンバーも少人数となり過ぎてきましたが、この4月からは更なる変化を遂げました。所属児童は、他寮からの移動メンバー3名を含む5名となり、職員数自体は7名と変わりませんが、うち



6名が入れ替わるという、もはや、新しい寮とも言える生活がスタートしました。当初はま

さに全てが手探り状態でしたが、常に児童ファーストは変えず、その中でもどんなことができるか、何が好きか苦手か、一緒に過ごしていく中で、少しずつ

つけやき寮の姿が形となってきています。わかば祭や夏のプール、かき氷会などの学園行事から、おやつパーティーや焼き肉大会などの寮内イベント、休日のお散歩や買い物に学校の運動会などなど、あっという間の4ヶ月でした。野球やバスケなど体を動かすのが好きな児童、部屋でのんびり絵を描いたりタブレットを見たりするのが好きな児童、卒業後に向けてお仕事を頑張る児童、仮面ライダーや戦隊ヒーローが好きな児童、マリオとおしゃべりが好きな児童、そして、新卒から大ベテランまで幅広い職員たち。児童・職員合わせて12名の新生けやき寮は、他寮とは少し離れた場所で、ひっそりと、そして仲良く元気いっぱい、毎日を過ごしています！

伊藤 幸恵



くぬぎ寮

魅力的+個性的=最高

くぬぎ寮…それは秩父学園きっての精鋭が集えし場所。ボーイズは、色鉛筆やクレヨンを使い自分を表現する天才画伯や裁縫でオシャレを追求するクリエイター、大きな相手にも怯むことなく立ち向かう小さな戦士や水に魅了された水の魔術師など、様々な魅力を持ち合わせ、職員は個性豊かなメンバーが揃っています。



感のするどい方ならずにお分かりかも知れません。そうです。くぬぎ寮は毎日

がドラマティックなのです！さらに内容もアクションやコメディまで幅広く全く飽きることがありませ



ん。しかも、そんなドラマティックな毎日を楽しんでしまうボーイズと職員って最高じゃないですか？

しかし、そんな最高なくぬぎ寮も、新年度は、児童、職員共に大きく変わり正直何があったのか覚えていないほど、あっという間に過ぎ去りました。「大変」なだけのドラマはつまらないと思われることでしょう。ところが不思議なことに、振り返ると思い出されるのはいつも「大変さ」より「楽しさ」なのです。「楽しさ」が「大変さ」を上回って、やっぱり最高だからですよ？

精鋭が揃えし「くぬぎ寮」では、今この時も新しいドラマが生まれています。ワクワクが止まらない「くぬぎ寮」に乞うご期待☆



滝澤 剛敏

どんぐり寮

4月から特別支援寮として開設されたどんぐり寮ですが、早くも夏を迎えることができました。どんぐり寮では、「いつもと違うこと」を苦手とする児童が多く在籍していますが、行事などのイベントにもご本人たちのペースで参加できるよう支援しています。今年の夏に行われた行事でも、多くの児童が参加することができましたので、その様子について報告させていただきます。

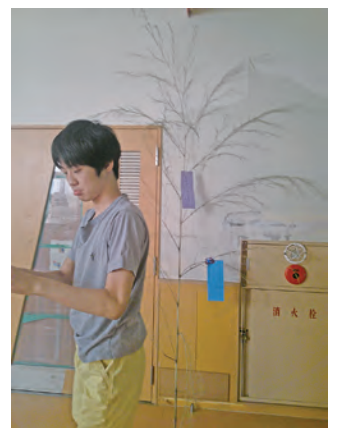
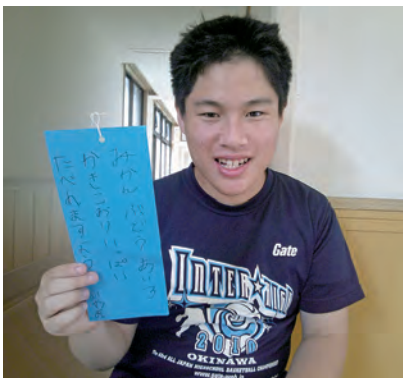
7月は児童の皆様が待ちに待ったプール開きでした。今年は猛暑のせいか、多くの児童が例年にも増して気持ち良さそうにプールの時間を楽

しまれていました。どんぐり寮には、水が大好きな児童がたくさん在籍しています。プールでは元気いっぱい走り回りながら、他児童や支援者と笑顔でかかわっている様子が見られました。

また、夏のイベントとして秩父学園で行われた「かき氷会」にも、多くの児童が参加することができました。自分で好きな味を選んだりしながら、パラソルの下で美味しそうにかき氷を召し上がっていました。

どんぐり寮の皆様は、1人ひとりがご自身のスケジュールを活用しながら生活されています。今後も、ご本人たちのペースを大切にしながら、行事などのイベントを楽しみながら参加していただけるよう支援に努めていきます。

清水 康平





熊澤海道の「向かい風 反対向けば 超追い風！」

「〇〇させるという言葉」

国立障害者リハビリテーションセンター病院 歯科医師 熊澤 海道

今、外気温34℃（7月初旬）、とろけながら執筆している熊澤です。

さて、熊澤は日頃から「〇〇させる」という言葉が気になっています。以前、大学病院に勤務していた時、学生さんへの「教育」場面で、また今現在も日々の生活の中で耳にするこの言葉、熊澤には【対象となる方がやりたいと思ってないこと、あるいはやりたくないことを何の工夫もなく強要、命令している】ような強い言葉に聞こえ、さらに少し恐怖も感じます（完全に個人の主観なので不快に感じた方はすみません）。もちろん、この言葉を使っている人に他意などは全くないと思います。しかし、熊澤の超個人的な感覚だと、無意識でも「〇〇させる」という言葉を発している場合、「対象の方の意思決定を無視し

ちゃってないかい？」ってしてしまうのです。

全ての患者さん、特に知的・発達障害のある方の治療を行う際「可能な限りご本人（ご家族等含む）と共同意思決定を行い、治療を進めていきたい」と強く意識する中で、たとえば「歯磨きをさせる」ではなく「歯磨きをしてもらう」とマインドシフトしてみたら「歯磨きをしてもらうという選択をしてもらうためにはどのようなアプローチがこの方に適しているか？」という「その人を知る」ことに繋がっていくのでは！？みたいなことを夜な夜な考えています。

「（誰かに）やらされる」のではなく「（自分で決めて）やる」方がポジティブに生きていけるのかなと思う今日この頃です。

令和7年7月1日付新規職員採用



小高 智史
新規採用
療育支援課 くぬぎ寮

❖入所児童の動き

7月に、男児2名、女児2名
新規に入所されました。

行事予定

10月～11月 インフルエンザ予防接種
11月 入間わかくさ高等特別支援学校
緑明祭
所沢特別支援学校
トコトコフェスティバル

編集後記

暑いが続きました。児童の皆さんも「えっ！背伸びたねえ」とあっという間に大きくなりますが、学園の雑草もあっという間に伸びてしまい、環境整備にてんてこ舞いしている夏でした。（仲）

発行日 令和7年9月10日

発行 国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局 秩父学園

住所 埼玉県所沢市北原町860 TEL 04-2992-2839 FAX 04-2995-2253

chousa-chichibu@mhlw.go.jp

